

私達夫婦は、両親が里親をしていたことから里親になることを特別な事とは感じていませんでした。実際に、私も家内も両親が小学校入学を控えた子どもを受託して、その子どもが高校卒業後6年程まで共に同じ屋根の下で生活をしました。彼女が結婚を機に我が家から自立していきました。その子ども子どもの親となり、子どもが小さい時には親子連れでよく遊びに来ており、今でも家内に時折電話をしてくれます。

彼女の結婚後、私たち夫婦も「里親登録をしようか。」と検討を始めました。その時に父が、「子どものいない大人はたくさんいるけれども、親のいない子どもは本来一人もいないのだよ。二人には、今、子どもがいないし、人様の子どもを育てるのは辛い時もあるけれども、楽しいものだと感じる時が少しでもあれば、人間本望ではないだろうか。養子とか跡継ぎについては、特に考えなくてもいいよ。家のことは心配しなくてもいいから、二人で時間をかけて相談をして結果を出せばいいよ。」と、言ってくれた言葉は今でも頭の中に残っています。

登録から8か月後、姉妹を受け入れてもらいたいと話がありました。今思い出しても辛くなるのですが、姉妹の特に妹は実際の年齢に見えないくらいに小柄でした。家内と相談して沢山食事をとらせてやろうと、いろいろと工夫しましたが、実際は難しく初めて見る食べ物には怖がって手を付けようとしない時もありました。もしかしたら、それまでは食事が十分にとれない環境だったのかもしれない。その後も、家内は子どもたちの食事に苦勞していたように思います。現在姉妹の妹は母親になり、子育てに奮闘しています。

里子とのくらしを振り返ると、思春期の女の子の考え方が理解できなく噛み合わなかった時に、互いに辛い思いをしたことが思い出されます。なかなか子どもの言い分を組み入れることが出来ず「わかるわけがない。」と難儀していると、里親仲間が自分のことのように相談にのってくれました。大変ありがたく、助かりました。その時のこともあり私自身も少しでも後進の里親さん方の力になればと考えています。